



おひさしぶり 岡田さんの便り

①の河童

長らく御無沙汰致しています。  
その後御元気に御通しの事と存じます。

さていつも百万石その他の記事を楽しみ拝見してはいますが、わけても私家版というが道楽版の方がいっそう楽しませてくれます。便りかくるのが待たれるような状態です。

いちどお目にかかりたく思っています。新学期以来何かとゴタゴタしています。同封のお金 ひとつは道楽版の発度にお役立て下さい。 草々

(何故 ①の河童がこんな所へ現われたか 元祖三巻版6号をどうぞ。)

俳句入り ヨ 政美さんの便り

きょう仕事で外出したとき、クルマの中から見かけた堤防の桜並木がみごとでした。そして、むかし、俳句を始めた頃に、桜の俳句を書いたとき「ほんとうの桜を見たのか」と問い直されて返事に窮したことを思い出しました。

去年、家内の父が亡くなったときは、ちょうど桜の花盛りでした。そしてこんな俳句ができました。

うつくしき 桜を見たり人死して  
さくら散る ちるときいろ すぐ忘る  
ぼんやりと 曇がひかる 花ぐもり

そのとき、やっと桜の俳句が書けたように思いました。何年か前に こんな俳句をつかったこともあります。

雨つづく うめのおくやま 花ざかり

モノを見るということは至難の技です。ましてモノが見えてくるなどというのは、もっと大へんなことだと思えます。私にはまだ写真が見えません。写真を撮るときほんとうのモノが見えておりません。でもやっぱり写真が好きなのです。だから、少しずつでもとっていきます。いつか見えるときがあることを思いながら。

十津川の一 夜 篤志山(序二段落ち)

上へ逃げると5手詰め。下へ逃げると13手詰め。但し、下へ逃げたら簡単な金銀の並べ詰めだ。「うぐいす屋」での将棋の話。上へ逃げると、金の只捨て以下5手。だが銀捨てでは詰まない。僕は7大玉と上へ逃げた。将棋は勝った。「銀より金の方が価値高い」だから相手はまちがえた。

今回のテラックス・ハイキング、「遠足か撮影会か？」ブツができれば「撮影会、できなければ……」。でも、その実質は……？やっぱり内容は問題ですな。でも十津川宿の一夜はとてそとでも楽しかった。

篤志山がふらりと現われたので、ぶっつけ本番で書かせたら大きな字で書いていきやがった。こちら老眼鏡を2枚も掛けて小さい字で書いてるのに、コンクショウ。近頃の若いモンはどうもいかん。



くるま4台  
1泊2日  
DELUXE ハイキング



隆の字の手紙

この間はとて素晴らしい所へ連れて行ってもらって どうもありがとうございました。今思うとあそこはまるで別世界のような気がします。帰ってくる時 だんだん町が見えてくると、ひどくうとうとしく思いました。どんな写真ができるか楽しみです。それから普ダシ、あまり話したことの無い人とも話してきたし、いろんな人の写真に対する姿勢も勉強になりました。また機会を作って行きたいです。特に 奥里(おくざと)が気に入りました。ほんとにありがとうございました。



カズコ

38才にして前の夜なかなか寝られず、しかも6時起床。柳生さん東さんを東せてボフンてん手。藤原へ着いた。藤原は凄。小さな吊り橋あり。喜々として小走りに渡る。安子さんとちゃんもようやく渡った。大きな吊り橋あり、日本一。和ちゃん渡〇〇〇〇た。旅籠はうぐいす屋、字井の宿。山うどの味噌あえ、タカナの漬物。ワインにウイスキー。

隆の字



(オ1信)  
野参より高山へ天生峠を越えて白川へそして山の神峠を越えて、富山県利賀村へと新緑の雨の中をドライブしてやってきました。地元の人に聞いてもこの時期にこれらの峠を越えられることは全く珍らしく、今年は雪が少なかったからねえと聞いていました。平日でしかも雨、とあってふたつの峠越えに一台のクルマ ひとりの人にも会いませんでした。利賀村——一見して過疎を感じさせない山村です。観光、地場産業、そして村の生活と文化をうまく調和して開発し、村造りに成功した日本でも珍しい例の村のように見受けられました。1時間足らずこの村を見ての感想です。と言うのは、後編へ寄った時、気持ちよい娘さんが応待してくれて50分の1の村の地図をたたくてくれたからです。

民宿ではまず、消し炭のいっばいについているイロリの側に通されて、おはあさんが「まだ動いているワ、おあかわいそうに」と言いながら、串刺しの岩魚を一匹焼いてくれました。そしてそれが焼ける間にと案内された風呂は、薬湯。薬品ではありません。ちゃんとした「当帰(とうき)という山草のふろ。たったひとりのお客におはあさんは次々と山菜を運んでくれた。甲でも珍味は「ワサビ菜のおしたし」と「あさみのみそ汁」。とにかく明日は(今日か、もう)この村のすみずみまで見て歩くつもりです。でもまた雨が降ってる……。夕食にビールを注文したら2本持ってきた。ここは名だたる酒家の富山県。酔っぱらってバタンキュー例によって夜中に目が醒めた。時計無し。

旅情豊かに極めて味わいのある紀行文です。読んでるととても安らいだ気分。名文なり。(ヨースケ)



「東さんの出陣をリリウキましたよ」と柳生さん。「それはすいません寝たかたでしよう」と私。「いやいや河原の鳴き声と聞いたらなかなか風流なものでしたよ」と二人、隆の字。「ボクも共感しりやりますので……」その時、篤志山をすかさず。「ああ、あの立目、ボクは鈴の音目かと思っただよ。」うぐいす屋の朝のひとこまでした。平本君、4リットルの温かいお茶ありがとう。4リットルは重い。いつもみんなが飲みたくなる頃、あんたはどこかうともなくその大水筒を持って現われた。